

すぎなみ 

2023

ピースフォーラム

戦争/原爆/原発/沖縄/平和と憲法を考える展示とイベント

報告集

核・戦争はNO！
平和が地球の命(いのち)を守る



2023年8月4日(金)～6日(日)
会場：杉並 産業商工会館 展示室・集会室

すぎなみ ピースフォーラム 2023 報告集

目 次

はじめのことば 「2023 すぎなみピースフォーラムを終えて」 杉並ピースフォーラム 事務局長 矢内 一弘	2
[I] テーマ別展示の報告	3
① 憲法…今こそゆるがぬ平和を世界と日本に	3
② 原水禁署名運動発祥の地：杉並	4
③ 広島・長崎「原爆と人間」 広島の高校生が描いた原爆の絵	6
④ 杉並の戦争と平和 戦争と平和マップ：先人 関東大震災100年：平和川柳と杉並の作家	7
⑤ 沖縄のいま 安保・地位協定 沖縄を再び戦場にするな	10
⑥ アジアの友好と平和	12
⑦ 原発一戦争・3.11 事故・子どもの健康・再稼働	13
⑧ 平和への思いを短歌に・・・	15
⑨ ウクライナの実相・戦争はやめろ	15
⑩ 平和を考える絵本	16
[II] イベントの報告	17
* 講演① 「21世紀の国際秩序と日本外交」五野井郁夫さん	17
* オープニング合唱：平和を歌う 西部のうたごえ合同合唱団	19
* 講演② 『敗れざる者』たちの肖像 島村 輝さん	20
* ドキュメンタリー 映画 「鶴 彬 つるあきら—こころの軌跡」他	23
[III] 参加者の感想	24
[IV] いろいろな資料	27
案内チラシ・プログラム・会計報告	27
展示会場 設営平面図・実行委員紹介	28

2023年 すぎなみピースフォーラムを終えて

すぎなみピースフォーラム実行委員会 事務局長 矢内 一弘

8月4日(金)・5日(土)・6日(日)の3日間、阿佐谷の産業商工会館を会場にして「すぎなみピースフォーラム」が開催されました。当日は、大変な猛暑でしたが、のべ500人近い方々の参加があり、成功することができました。協賛くださった方々、展示やイベントを担当された皆さん、会場設営に協力いただいた皆さん、なによりも暑い中、会場まで足を運んでくださった方々に深く感謝申し上げます。

今年のテーマは、「核・戦争はNO！—平和が地球の命(いのち)を守る！」で、平和主義の原点「戦争はやめろ」について考えました。1年半を越しても続けられている、ロシアのウクライナ侵攻。また日本国憲法改憲の急な動きや、軍事予算の拡大と軍事大国化をめざす動きなどの中で、平和について、共に考えあう催しがますます重要となっています。

この行事の始まりは2000年でした。戦争に明け暮れた20世紀の最終の年で、翌年からは21世紀となります。「子どもたちに一平和な21世紀を！」をテーマに、「平和のための戦争・原爆展INすぎなみ」の名称で始まり、2002年からは「すぎなみ 平和のための戦争・原爆展」に。2006年から「すぎなみピースフォーラム2006」となり、区の後援も得て、現在24回目になりました。

当時、会の代表委員をされていた、柴田徳衛さん・山住正己さん・湯浅謙さん・小沢清子さん、実行委員の尾崎守夫さん・守屋ミサさん・上条喜佐雄さん(事務局長)・平沢直義さんも他界されました。そうした中でも、新しいメンバーも加わり、現在に至っています。

展示では、2年前から「原水爆禁止署名運動発祥の地：杉並」を15枚を超えるパネル(展示パネル印刷)にまとめました。区内・区外のいろいろな行事に活用してもらいたいと思います。

杉並は戦前から平和運動を志向する先人たちがおり、今年は反戦川柳作家「鶴^{つる}彬」についての展示、映画、講演を行いました。また2023年は関東大震災から100年目にあたり、その展示もしました。

ピースフォーラムにも若い力をもっと取り入れてほしい…など課題もたくさんありますが、みなさんの力もお借りして、この平和活動を杉並でさらに発展させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

〔1〕 テーマ別展示の報告

① 憲法「今こそゆるがぬ平和を世界と日本に」

I. 9 条発案者・幣原喜重郎元首相の言葉に耳を傾けよう

幣原氏の言葉を次の4点に集約して紹介しました。

- 〈その1〉 原子爆弾というものが出来た以上、世界の事情は根本的に変わってしまったと思う。戦争をやめるには武器を持たないことが一番の保証になる。
- 〈その2〉 軍縮は不可能である！ 軍拡競争とは際限のない悪循環を繰り返すからだ。
- 〈その3〉 もし軍縮を可能にする方法があるとすれば一つだけ道がある。それは世界が一斉に一切の軍備を廃止することである。ここまで考えを進めてきた時に、第九条というものが思い浮かんだのである。
- 〈その4〉 日本が自発的戦争放棄国となり世界史的任務を受け持つ。日本は今その役割を果たし得る位置にある。歴史の偶然はたまたま日本に世界史的任務を受け持つ機会を与えたのである。〈世界の共通の敵は戦争 それ自体である〉 (佐藤康尚)

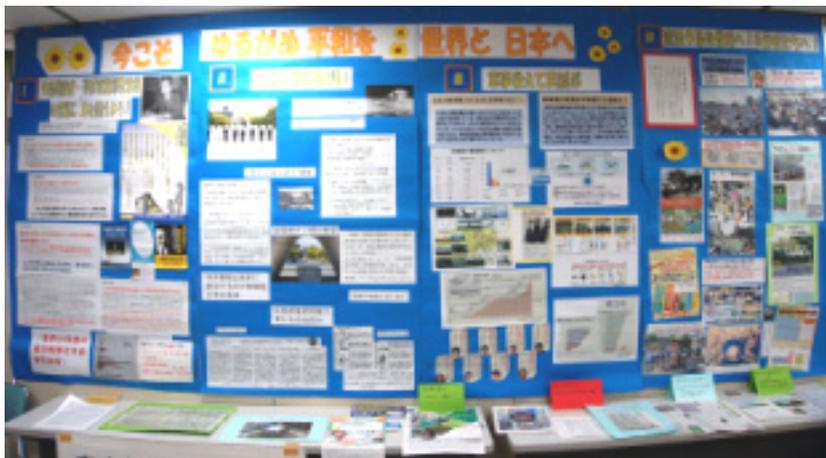
II. ヒロシマのねがい

5月にG7広島サミットが開かれ、そこで出された「広島ビジョン」は核抑止論に立ち、核兵器の威嚇を正当化するものだった。それは被爆都市広島の願い「核兵器なき世界」に反するもので、核廃絶や核兵器禁止条約の言葉もなく、被爆者を失望させるものであった。

広島・長崎の両市長の平和宣言には、核抑止論はもはや破綻しており、世界の指導者は核軍縮から廃絶に向けて具体的に行動すべき時であるとした。核廃絶こそ人類の希望の道

であり、そのために日本政府は、核禁条約会議にオブザーバーでも参加すべきである。

G7首脳は原爆資料館を40分見学した。その感想は修学旅行の高校生と同じものだった。



「過ちは繰り返しません」という人類の智慧を、今こそ実現させよう。 (矢内一弘)

Ⅲ. 軍事栄えて民滅ぶ

ここ数年で日本の軍事費は大きく増え続けて、主要国で9位となっている。政府は国の防衛予算を現在の1%から2%にするとしており、2%にすると10兆円を超え世界主要国で3位となる。更に岸田政権は5年間で43兆円にまで増やすとしている。

その財源はどうするのですか？ 不足分は ①歳出の改革 ②歳出余剰金の活用 ③防衛力強化基金 ④増税(たばこ税、法人税、復興特別所得税の流用)で賄うとしているが、賄いきれない。その結果、消費税の増税、社会保障費の大幅削減、国債の乱発に道をひらくことは目に見えている。それだけの資金があれば 大学授業料の無償化(1.8兆円) 小・中学校の給食無償化(1兆円) 医療費自己負担をゼロに(5兆円) 消費税の引き下げ10%から2%に(4兆円)などに使える。

やるべきことは戦争の準備ではなく 憲法9条を守り、軍事費をくらしに転換することが必要である。 (赤坂和子・山田ヒサ江)

Ⅳ. 憲法9条を世界へ！ & 若者たちへ！

国内では年内にも改憲案が憲法審査会で審議されようとしており、正に憲法の危機に直面している。大軍拡を進める政権にとって 狙いは9条の改定である。9条と平和を守る国民の運動も正念場を迎えている。憲法記念日の大集会に2,5万人、9条の会全国交流集会の開催、去年の「足立9条の碑」に続き「府中に9条の碑」を作る運動が盛り上がり、6月には「世界に9条プレート」を贈るプロジェクトも始まった。この運動を若い世代に引き次いでもらいたい。4年ぶりに開かれた全国若者憲法集会、高校生平和ゼミナールの活動も心強い。地元 杉並での9条の会の運動、9条変えるな！ 杉並市民アクション、新婦人など女性たちの平和の運動などを取り上げて紹介した。 <制作協力:山中ともさん>

(早川美和子)

② 原水禁署名運動発祥の地：杉並

昨年までの15枚の展示パネルに加え、「核兵器禁止条約」と「署名運動の概括と核兵器禁止条約発効までの歩み」のパネルを新たに追加し、1954年に原水爆禁止署名運動が開始されてから核兵器禁止条約発効までの長い歴史を一目で分かるような展示としました。



I. 展示パネル: 「核兵器禁止条約」 「署名運動と今日までの歩み」を新たに追加

「原水爆禁止署名運動」から「核兵器禁止条約」発効までの歩み

「署名運動」全国に広がり原水爆禁止世界大会に結実

杉並から始まった原水爆禁止署名運動は、署名開始から1ヵ月で26万筆を超え、最終は当時の杉並区の人口の7割に当たる28万筆に到達した。

さらに、この署名運動は日本全国に広がり1955年には3200万筆に達し、日本の有権者の過半数が署名するという未曾有の大国民運動へと発展した。

この力が1955年8月の第1回原水爆禁止世界大会開催に結実し、世界的な運動へと、さらなる発展を遂げたのである。

発展の要因は「全世界への運動へ」との展望を持ったこと

杉並から始まった原水爆禁止署名運動が、このような空前の規模での全区民の運動に発展した要因はどこにあるのか。

それは、第一に、この運動が特定の党派ではなく、あらゆる立場の人々を結ぶ全区民の運動として組織的・統一的運動として取り組んだことにある。

第二に、この運動を杉並だけで終わらせるのではなく、日本全国民に広げ、さらに全世界への運動に発展させるとい展望をもって推し進めたことにある。

被爆者の国内外の核兵器廃絶運動が世界を動かす

こうした国民的な原水爆禁止運動の高まりの中で、1956年8月に被爆者の全国組織である日本被爆者団体協議会(日本被団協)が結成された。日本被団協は結成以来、日本の国内はもとより全世界に向けて核兵器廃絶を訴え続けてきた。

被爆者は、国連や国際会議などの場で被爆の実相を証言し、核兵器禁止条約締結の実現を訴え続けてきた。さらに運動はすすみ、2016年から始まった「ヒバクシャ国際署名」には、被爆者の訴えに賛同した個人と団体によって2020年末には国内外で1370万2345人分が集められ、大きな力となった。

67年の時を経て悲願の「核兵器禁止条約」に結実

このような国内外の核兵器廃絶運動の高まりの中で、2017年7月7日、核兵器禁止条約交渉の国連の会議で核兵器禁止条約が採択された。2020年10月24日には批准国が本条約発効に必要な50ヵ国・地域に達し、90日後の2021年1月22日に核兵器禁止条約が発効した。

「杉並から全国へ、さらに全世界へ」という展望をもって杉並から始まった原水爆禁止署名運動は67年の時を経て悲願であった核兵器禁止条約に結実。人類史上はじめて「核兵器は違法」とする国際法が誕生したのである。



杉並区役所区民ギャラリー 杉並光友会 展示と共に



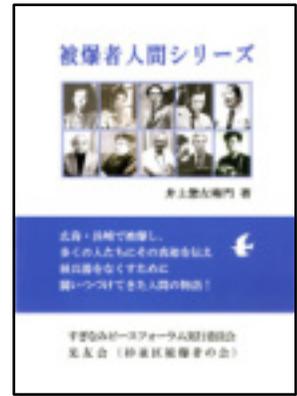
II. 展示パネルが杉並区役所での「原爆と人間展」で展示される!

8月8日～8月16日に、杉並区役所 2階 区民ギャラリーで「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間展」(主催・杉並光友会 後援・杉並区)が開催され、「2023 すぎなみピースフォーラム」で展示された「杉並から始まった原水爆禁止署名運動」のパネル6枚が、杉並光友会の展示パネルと共に展示されました。

私たちピースフォーラムが製作した展示パネルが区役所で展示され、一般の区民の方々の目に触れることは大変意義あることです
(金田克彦・竹内ひで子)

③ 広島・長崎・原爆と人間

ピースフォーラム展で、杉並光友会の展示作品「被爆者人間シリーズ」を10年間、井上惣左衛門さんが86歳から96歳まで発表させて頂き、これが杉並光友会のメインの展示作品となりました。しかし、井上さんの高齢と10年という区切りで1冊の本にまとめて下さる事になり、2023年4月 発刊して頂きました。感謝致しております。



人間シリーズは終わってしまいましたが、2022年は核兵器禁止条約発効の年で、杉並平和団体が映画「ヒロシマへの誓い：サーロー節子と共に」が上映される事になりましたので、杉並光友会は人物展としてサーロー節子さんを取り上げました。

そして2022年には、核兵器禁止条約に日本が批准・署名するように、そのアピールを考え、お若い方達に被爆者は「核兵器の恐ろしさをもっと伝えなくてはいけない」と思い、広島市立基町高校美術部の生徒さんの絵を観て頂くようにしました。今年、2023年は、さらにこのパネルを追加して展示しました。

この絵を描くにあたって、基町高校の生徒さんは、被爆者と対峙して被爆体験を聞いて下さり、表現を被爆者と共に確かめながら制作していることが、とても大切なことです。現在原爆の絵は、820余枚あるそうです。

これからも、平和を維持できることを祈っています。

(久保田 朋子)



基町高校生の描いたヒロシマ



*合掌をする母・(私)

原爆被害の実相を伝えるパネル



*けがをした友だちを運ぶ



④ 杉並の戦争と平和

I. 杉並の戦争と平和マップ 戦争に抗した杉並ゆかりの先人

この2つの展示パネルは、過去何回も使用されていて、傷みも多くなっている。そのことから昨年は展示をせずに、「杉並にも空襲があった」「学童疎開」などのテーマパネルを作成し展示した。しかし、「戦争に抗した杉並ゆかりの先人たちは」、現在の杉並の革新的伝統にもつながる重要な内容であり、展示すべきであるとの意見もあった。毎年展示しているテーマであっても、核心となるテーマについては、色あせることなく、繰り返し展示する価値のあることを再認識した。

今年はその中に新しく、戦後初の公選制 区長選挙で当選し、全国唯一の民主区長となった新居 格 杉並区長を追加した。新居は戦前から、城西消費組合の中心を担い1936年、高円寺の新しい中央店舗建設にあたって、土台固めの「ヨイトマケ」の主綱を握っている。この様子を共に見ていた反戦 川柳作家の鶴 彬が「新居格 ペンだこあはれ綱に負け」の川柳を詠んだことも紹介した。鶴 彬も「先人」に加えたい。 （高木たかし）



II. 関東大震災 100年と 高井戸の農民思想家 江渡狄嶺^{てきれい}

関東大震災 … 杉並で何があったか — 区民と朝鮮人留学生の証言と回想 —

「関東大震災100年」にあたって「東京新聞」が報じた日本世論調査会の世論調査によると、「関東大震災で“朝鮮人が暴動を起こす”といった流言が広がったことを知っている」と回答した人は33%であったという。

この調査が示しているように、関東大震災で戒厳令下に 6千人を超える朝鮮人が軍隊と警察、自警団によって殺害された事実は、多くの国民の共通認識になっていない。

2枚のパネルではあるが、当時の杉並で何があったのか、大震災を体験した杉並区民の証言、そして高井戸の農民思想家・江渡狄嶺にかくまわれた金三奎ら三人の朝鮮人留学生の回想や高円寺に住む朝鮮人留学生の証言により、歴史の真実を区民の一人ひとりが考える一助になればとねがってこのテーマの展示を作成した。

二人の朝鮮人留学生の体験の一端を紹介して、このコーナー展示の報告とする。



江渡狄嶺 と 金 三 奎 (キム・サムギユ) 1908～1980

江渡家に3ヶ月もかくまわれた 15歳の少年、金三奎 は、その後も生涯を通じて江渡一家と親交を結んだ。

大学を卒業した金三奎は、反帝同盟の一員として活動したが、特高に検挙されて杉並警察署に留置され、西大門刑務所で獄中生活をおくった。戦後は東亜日報・編集局長となる。

江渡狄嶺は、朝鮮人の人権を守り抜いた弁護士・布施辰治 と親交があり、1933年、布施弁護士の出獄記念会に参加し、秋田雨雀、三木清らとともに「自由懇談会」に参加する。

中野の電信隊に連行された 尹 克 栄 (ユン・グギョン) 1903～1988

関東大震災直後、音楽学校の留学生、尹克栄は、中野の電信隊に連行されてた。その時、所持していた有島武郎著「惜しみなく愛は奪う」の本の表題が赤い文字の印刷であったことから、「共産党だろう」と拳銃を突きつけられて留置された。

尹克栄は戦後、著名な作曲家となった。

(岩崎健一)

江 渡 狄 嶺 (1880～1944) 本名 幸三郎 青森県五戸町の呉服商 旧家で誕生。

東京帝大 法律学科 進学。思想家として「百姓の生活の道こそ正しい」の信念のもと、大学を中退する。1913年(大正13) 豊多摩郡 高井戸村字原(現:杉並区高井戸東1-8)に土地を借り、自らの哲学 実践の場としての農場を開く。三蔦苑(さんちようえん)と名付け、1944年、64歳で没するまでここに暮らした。

写真: 晩年の狄嶺と三蔦苑 母屋

杉並区立郷土博物館分館 資料 から



Ⅲ.「平和川柳」と 「杉並で活躍した川柳作家たち」

① 川柳文芸の誕生

川柳（せんりゅう）は1757年、浅草新堀端の龍宝寺門前町の名主・柄井八右衛門（1718-1790）が「川柳」と号して「前句付」の選者として活動を始めた時に誕生。

② 江戸の「古川柳」

1765年に 呉陵軒可有編で『誹風柳多留』（初篇）が刊行。次の「古川柳」を収録。

役人の子はにぎにぎをよく覚え

これは賄賂をとる役人を諷刺したもので現代にも通じる「^{うが}穿ち」（アイロニー）のある川柳。

③ 近代川柳の展開 一井上剣花坊（けんかぼう）の柳樽寺川柳会—

1903年7月3日、井上剣花坊（1870-1934）が新聞『日本』で「新題柳樽」欄の選者となり、「新川柳」が誕生。1905年に剣花坊は「柳樽寺川柳会」を創設。同年11月3日、機関誌『川柳』を創刊。以下の川柳は剣花坊の「プロレタリア・ポエム」

突き進むにぎりこぶしへ当たる風

④ 鶴 彬（つる あきら）の登場 —プロレタリア川柳—

関東大震災後、剣花坊は 高円寺1000番地に住み、1927年1月には 馬橋ヶ原547番地に移転。この地で 柳樽寺川柳会の機関誌『川柳人』が刊行される。この年、18歳の 喜多 一二（かつじ）（後の鶴 彬）が剣花坊宅を訪問。翌年9月、鶴 彬は再び上京し、『川柳人』（192号）に「鶴 彬」の筆名でプロレタリア川柳を発表。



⑤ 井上信子の平和川柳

井上信子（1869-1958）は剣花坊の死後、『川柳人』を継承し、主宰者となる。1937年11月の『川柳人』（281号）に、次の鶴 彬の川柳が掲載される。

手と足をもいだ丸太にしてかへし

この鶴 彬の川柳が「非愛国的」な川柳とみなされ、鶴 彬は治安維持法違反で検挙され、1938年9月14日、逝去。信子はこの鶴 彬の〈死〉を悼み、1940年に次の川柳を発表。

国境を知らぬ草の実

こぼれ合ひ

1954年7月、信子は杉並区大宮前町の大石鶴子の家に移り、1958年4月16日、脳溢血のため逝去。



享年88歳。

⑥ 大石鶴子の平和川柳

信子の死後、鶴子が『川柳人』（601号）から引き継ぎ、『川柳人』（800号）まで編集・発行。

鶴子は1999年5月逝去するまで平和川柳を発表。

反核へ地球の生命絶唱す

⑦ 東京川柳会の「平和川柳」

皮膚一枚ぼろぼろ空を溶けてゆく

十六世 青田 川柳

鶴を折る人の指から千羽舞う

十八世 平 川柳

⑧ 英語でセンリュウ

青田川柳の（1928-2018）の平和川柳は Andrew Houwen（東京女子大学准教授）によって英語で紹介。

皮膚一枚ぼろぼろ空を溶けてゆく a piece of tattered skin melts into the sky

（平 川柳）



石川県かほく市高松 浄専寺
鶴 彬をたたえる集い

⑤ 沖縄のいま 安保・地位協定

I. 沖縄を再び戦場にするな



沖縄本島を中心に西南諸島を、北朝鮮、中国からの攻撃の盾にするという米軍戦略にそって、自衛隊のミサイル部隊の配置、基地の要塞化が進められています。

そこで、先の大戦で沖縄の戦場化の実相を知るために、3冊の本を紹介しました。

① 「対馬丸」大城立裕著

沖縄から本土へ向かった学童疎開船、米潜水艦の魚雷攻撃で沈没し、学童 800 余名を含めた 1661名の乗船者の多くが溺死。生き残った学童は 50名余。



②「ひめゆりの塔」

女学校生徒が医療に従事、激戦地南部で多数が死亡。

③「写真記録・これが沖縄戦だ」 大田昌秀編著



次に、今年の慰霊の日に朗読された高校生の「平和の詩」を抜粋して紹介しました。おばあ、亡くなった兄への思いを綴った詩の結びは、『先人達が紡いできた平和を 次は私達が紡いでいこう そして世界に届けていきたい 平和を創り 守っていく この沖縄の「チムグクル」を』

玉城知事の「平和宣言」は、琉球王朝時代の交易していた万国津梁(ばんこくしんりょう)一架け橋としてどの国とも交易したいと宣言し、沖縄独自に「平和賞」に取り組み、第1回は中村哲さんのペシャワール会に贈られ、アジア各地の平和団体を励ましています。

II. 戦争を起こさせない外交を

政府は住民を守るためにシェルターを設置するなどとしています。シェルターで住民を守れるのでしょうか。無謀な対馬丸疎開やガマに退避した住民を追い出し、集団自決を迫った日本兵。国や軍隊は住民を守らないことを沖縄の人は身をもって知っています。

戦争をおこさない努力にこそ 傾注すべきではないでしょうか。核兵器にシェルターで対抗できません。さらに問題なのは そんな要塞化のためにゼネコンが動いており、そのワイロが政治家へ・・・と 疑われる動きがあるのです。

あらためて、沖縄が独自にがんばっている外交に 本土からも声援を送りたいと思います。

III. 杉並と ゆかり の人々

沖縄学の先覚者 伊波普猷 は 中野の自宅を戦火で失い、比嘉春潮 の招きで荻窪に寄寓。共に沖縄同胞のために「沖縄人同盟」を発足させ、春潮宅に事務局を置きました。娘を寄宿させていた 瀬長 亀次郎も ここを訪ねています。瀬長はこの後、那覇市長となり米軍施政下で その横暴と闘い続けました。また 沖縄返還の運動に心を寄せていた 善福寺在住の英文学者・中野好夫は 革新都政を支える活動とともに 資材を投じて「沖縄資料センター」を設立しました。

復帰前の冷戦下、伊江島は日本軍が作ったものも含めて 3本の滑走路があり、爆弾投下などの演習地も作られ、土地取り上げが死活問題でした。そこに 都立荻窪高校定時制に在籍していた黒田操子さんが、激励の手紙を送りました。孤立していた島民は涙をながして感激。当時は米民政府の許可なく渡航できなかったのですが 島民の熱意で渡航が実現。

『沖縄の太陽』と称されました。

(加藤恵子・佐々木征)

⑥ アジアの友好と平和

日本AALA (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会) は、公正・民主的で平和な国際秩序をめざす非同盟運動の発展と非核の日本を目指して活動しています。そして2015年から「戦争するな どの国も」という国際署名に取り組んでいます。

- ◆ 東アジア首脳会議 (EAS) の参加国 18か国に要請してきました。これまでの要請署名は、累計で約9万筆になります。

『東アジアを 不戦、平和、協力、繁栄 の共同体に！』

- ◆ ① 対立ではなく、協力を優先させる ② 戦争しないルールを作成する ③ 「東アジア友好協力条約」の締結を目指す』が共同の旗じるしです。
- ◆ 戦争は絶対にしてはならない、紛争はあくまでも平和的な外交で解決するという姿勢で、未来を開くという信念を貫こうという国際署名です。

杉並区は 原水爆禁止署名運動の発祥の地であり、実行委員会には 幅広い団体が参加しており、「すぎなみピースフォーラム」は区と教育委員会の後援を得ています。これから、より多くの区民の参加によって発展することを願っています。

(杉並AALA 八木知彦)



⑦ 原発－戦争・3.11 事故・再稼働



新しい安全神話は
つくられていないか

1. 原発と戦争・現実的な選択は？

日本では 50基以上の原発が列島を取り囲み、戦争になれば日本の国土に向けた核兵器に早変わりすると言っても過言ではありません。「国破れて山河在り」は昔の戦争です。核の時代は、たとえ国が勝とうが「山河も国民も回復不能」な痛手を負うであろうことに気づかされます。

戦争になる前に止める、戦争にならない外交を普段からする、それは 9 条です。本気の現状分析による本気の外交。9 条を守るからこそ 現実的な選択ではないでしょうか。

Ⅱ. 処理水（汚染水）海洋放出

処理水とは言え事故で溶けた核燃料に触れた水であり、多くの放射性物質を含むうえ（汚染は 5 年前にスクープ報道）トリチウムは 除去できません。放射性物質が人間をはじめ 生物に悪影響をあたえることは 世界中で認められている大前提です。いくつかのポイントについて 展示しました。

まず、薄めれば何十年流しても問題ないのでしょいか。放射性物質の総量は変わりません。私たちは薄めて捨てたはずのものが 予想外に人間に戻ってくる、体内で濃縮されることを 20世紀に体験しました。

もう一点、世界の海に意図的に捨てることを 日本が決められるのでしょうか。多くの反対や



懸念があり、例えばP I F（太平洋諸国フォーラム）（オーストラリア・ニュージーランド・フィジー・パプアニューギニア等）は「何世代にもわたって危険にさらされる恐れ」を表明しています。国内でも福島県漁連に対しての「関係者の理解なしにはいかなる処分もしない」との約束が破られています。反対署名は25万人、環境団体、研究者も反対し、代替案が示されています。

水の惑星 地球。海は生命を育み支える土台です。ここ杉並区では ビキニ水爆実験による マグロの放射能汚染がきっかけとなり 原水爆反対署名が始まった歴史があります。

Ⅲ. 子どもの健康・・・小児甲状腺がん

小児甲状腺がんは、チェルノブイリ事故で被曝との関連を国際的に認められた唯一の病気です。福島の子どもの多発していることについて、国・県は事故による被曝とは関係がない、見つけなくても済むがんを見つけた スクリーニング効果であるとしています。

患者の実態は、これまで報道されることもありませんでした。昨年、事故当時子どもだった若者7人が 裁判をおこし、法廷で 実態が明らかになりました。その体験の苛酷さに 見学の方々から 驚きの声が聞かれました。

（本多百合香）

Ⅳ. 原発推進 GX法

原発GX法とは、1) GX推進法 2) GX脱炭素電源法の2つ。

GXはグリーントランスフォーメーションの略称で、経産省が提唱する脱炭素社会に向けた取り組みを指します。国は、福島事故からわずか11年で、気候変動問題に便乗し 原発を復活させようとしています。2つの法律によって、原発の活用が「国の責務」となり、老朽原発の運転期間が60年を超えて可能となりました。

Ⅴ. 東海第2原発の危険性



茨城県那珂郡東海村：東海第2原発

東海第2原発は、杉並から約140Km、「首都圏原発」です。地震多発地帯の茨城県東海村にあり、3.11の際には 電源を失いかけた日本一事故の多かった原発です。

福島原発事故は、決して他人ごとではありません。私たちのすぐ隣に 大変危険な東海第2原発が再稼働されようとしていることをまずは知り、関東の原発は関東の私達が責任をもって、止めようではありませんか。

（槌田 春美）

⑧ 平和への思いを短歌に・・・



新婦人・短歌サークルのメンバーが詠んだ歌を色紙などに書いてこのパネルを作成しました。(あけぼの杉)



戦死した父の「軍事郵便」抱きしめて
 九条守れと孫らに語る
 平和とはかくの如しと道の辺に
 薄紫に咲くワルナスビ
 明日開くトラジの蕾かぞえつつ
 慰安婦にされし少女を思う



⑨ ウクライナの実相：戦争はやめろ

ロシアのウクライナ侵攻から早1年半。いつ戦争が終わるかもわからず、毎日市民が殺害される現実があります。こんな日常が続くなどあってはいけません。その中で毎日、テレビやネットで見せられる戦争の実相は、人間って何なの？と思わずにはいられません。

みなさんに見ていた
 だいた10枚の写真で、
 ウクライナのは UK
 RAINA WAR IN PIC
 TURES からです。残
 虐な戦争写真ではなく、
 市民生活の苦悩を示し
 たいと考えました。

(矢内一弘)



*** みなさんからひと言**

「何人殺せば終わりになるの」「これはプーチンの戦争犯罪」
 「プーチンさん、あなたのお母さんのことを思い出さない」
 「いつ終わるの?」「平和のための知恵と勇気と決断を！」

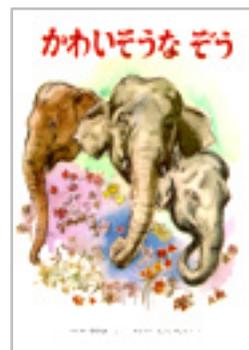
⑩ 平和を考える絵本

I. 2022・23年刊行の絵本

*「なきむし せいとく」(沖縄戦に巻き込まれた少年の物語・たじま ゆきひこ) *「トットちゃんの15つぶのだいず」(黒柳徹子原案・柏葉幸子文・松本春野絵) *「シッカとマルガレータ」(戦争の国から来たきょうだい ウルフ・スタルク作 スチーナ・ヴィルセン 絵) *「せんそう」(エリック・パトラー作 石津ちひろ 訳) *「せんそうがおわるまで あと2分」(ジャック・ゴールドSTEIN 作 長友恵子 訳)



その他、11冊の絵本を持参しました。6日の午前中に「よみきかせ」を予定していましたが、この時間、子どもの参加が無く、残念でした。大人は何人か座って本をご覧になっていました。(山田純子)



II. 絵本コーナーに展示した絵本

*「ぞうれっしゃがやってきた」 *「かわいそうなぞう」 *「8月6日のこと」 *「あの日のこと」 *「戦争なんか大きらい」 *「だれのこどももころさない」 *「戦争のつくりかた」 *「子どもにつたえる日本国憲法」(井上ひさし) *「子どもたちの日本国憲法」 *「原爆詩集」 *「原子雲の下より」 *「戦火の中の子どもたち」 *「手塚マンガで憲法9条を読む」 *紙芝居「ちっちゃい こえ」

これらの絵本を「絵本コーナー」に展示しました。子どもの参加が少なかったが、親と一緒に参加した幼児もいたので、このような年少の子ども向けの絵本も来年は用意したい。(山北敦子)

〔2〕 イベントの報告

記念講演 ①

「21世紀の国際秩序と日本外交」

講師：五野井郁夫さん 高千穂大学経営学部教授



8月5日(土) 14:00~15:00 地階：集会室で
《プロフィール》

1979年 東京都生まれ：国際政治学者；専門
は国際秩序論・民主主義論；著書に「デモとは何
か」：「立憲デモクラシーの会」呼びかけ人

五野井さんは地元杉並の大学教授で、舌鋒鋭い評論は TVでも人気があり、当日も定員を超える70名の参加がありました。講演内容は、以下のようなものでした。

1. 敗戦後の日本と平和憲法

今、世界は、欧米の自由主義体制 VS 中・ロの権威主義体制 の対決と言われているが、2022年では 権威主義の国が 72ヶ国に増え、自由に集会ができる国々が世界で 28%しかない状況になっている。

日本は敗戦により、日本の主権は「本州、北海道、九州並びに吾等の決定する諸小島」とされ、ソ連は 8.15 以降北方領土を占領し 9.3 を戦勝記念日としている。

そして日本国憲法＝国際紛争の解決手段としての戦争の放棄、陸海空その他戦力の不保持、日本の国家安全保障は国連に委ねられることとなり、連合国の天皇訴追を免れるための自主的な立場表明として 9 条につながった。それは、個別的自衛権は OK、集団的自衛権は認めず、のちに安倍政権により 集団的自衛権が一部行使可能になった。

2. 日米安保と 吉田ドクトリン

吉田政権 (1次1946～5次1954)：国民の強い反軍感情、再軍備の経済負担回避のため、吉田ドクトリンとして ① 日本は米民軍駐留を受け入れ、日本の軍事的安全保障にアメリカはコミット ② 日本は自衛力を軽武装に留める ③ 日本は政治的安定と経済復興を優先させる・・・を戦後政策の基本とした。日本政府は、東西冷戦と朝鮮戦争 (1950) の国内の変化により、早



期講和と主権の回復を最優先にし、サンフランシスコ講和条約（1951）を締結した。

*日米安保の構造：米上院 1948年 ヴァンデンバーグ決議＝自衛と相互援助の前提なき同盟は締結せず、日本の憲法解釈＝最小限度の自衛力を越える戦力は保有せず。

*日本も一緒に戦ってほしいのが継続的な米の意図

1960年の新安保条約 第5条＝アメリカは日本の施政権下の領域にコミット。第6条：日本はアメリカに基地や役務を提供し、米軍は極東の安全と平和のために使用できる 事前協議が提起されない限り、米軍が日本の意図に反して行動しない。日米の密約。日本の安全保障体制が、米国に守ってもらう対米従属体制となる。日米地位協定で在日米軍の圧倒的優位性。

3. 沖縄施政権返還後の東アジア

*日本の自衛力、憲法と自衛隊の乖離。在日米軍問題と核兵器持ち込み、米軍が日本防衛のためには行動しないのではという不安。日本の核保有の可能性から米国の脅しとしての「非核三原則」の宣言。この時期、米軍主・自衛隊従から、日本に軍事負担を求める自主米従を求める動き。

1972年 憲法で集団的自衛権を行使できないとする法理も公式化 政府解釈の確定

1960-70年代 には武器輸出制限政策 ⇒ 2014年 防衛装備移転三原則

1970年代後半以降 対外政策手段として、経済力の使用が推進

* ODA 増強

東アジアの中の日本

(吉田政権)

1956年 日ソ共同宣言 * 妥協しないようアメリカが釘刺し

(鳩山政権)

1965年 日韓基本条約 * アメリカが協力を呼びかけ

(佐藤政権)

1972年 日中共同声明

(田中政権)

1977年 福田ドクトリン 東南アジア地域全般の信頼醸成に貢献することを表明

(福田政権)

平和憲法の理想と日米安保体制の現実との矛盾。総合安全保障という幅広い、経済も含めた安全保障を政策にうたう。

4. 冷戦後日本の外交・安全保障

1989年から1991年末 ソ連解体にともなう冷戦構造の解体

1989年 天安門事件での強権政治の現れと、中国の台頭

- 1990年 湾岸戦争で130億ドル財政支援と自衛隊の機雷掃海 (海部政権)
- 1992年 国連平和協力法、PKO へ (宮澤政権)
- 1990年代以降 グローバル化進展と「人間の安全保障」
- 2014年 集団的自衛権の部分的行使が閣議決定 (安倍政権)
- 2015年 積極的平和主義、安保関連法 (安倍政権)
- 2022年 安保3文書 (岸田政権)
- 2023年 43兆円防衛増税 (岸田政権)

* FMN 調達の問題点 米国からの兵器調達が滞る。言い値の前払い金が過大に。

5. 台湾危機と日米安保の今後

台湾有事となれば、日本は捨て石とされる。莫大な損失となる。

「日本にある米軍基地を使える状況」が前提 ・勝ちシナリオ でも米空母2隻、駆逐艦も400~500隻失う想定。

* 日本外交の認識変化 日米同盟の強化一本やりに

* 戦争の評価を異にする勢力＝国内旧エリートの政治的復権 明治の神権国家の復活

補論：仲介国家としての日本

* 仲介国家 mediational state = 利害やイデオロギーの異なる国家や同盟同士を周旋(good offices)する国家のこと。

日本は軍事力なしに、中間的に立ち回れる仲介国家となるべき。日本外交は米国と中国の間に立ち、戦略的にも平和憲法を持つ国として行動すべきである。

杉並区の市民のみなさんは、原水禁署名運動など先進的取り組みをされており、このピースフォーラムの活動もそうです。先の国政選挙や区長選挙でも、市民運動の盛り上がりの中で大きな成果を上げています。その意味でも日常的な市民運動の重要性と、それを活かした議会制民主主義の実行がますます必要となってきました。 (矢内一弘)



オープニング合唱・平和を歌う

8月6日(日) 講演②を前に、13時30分から 地下集会室で、西部のうたごえ合同合唱団のみなさんによる合唱が行われました。 指揮：掛川陽子さん 伴奏：武藤栄子さん



♪ 曲目

「平和ってすてきだね」

「小さな世界」



記念講演 ②

『敗れざる者』たちの肖像

= 戦争に抗した 杉並ゆかりの 小林多喜二・鶴 彬・三木 清 =
 講師： 島村 輝 さん フェリス女学院大学教授



8月6日(日) 14:00~16:00 地階：集会室で

《プロフィール》

1957年 東京都生まれ；専門は日本近現代文学・プロレタリア文学、モダニズム文学関係の研究など多数・「蟹工船」エッセーコンテスト選考委員など歴任

講演が行われたのは8月6日、78年前 広島に原爆が落とされたその日だった。席に着いた島村輝さんはまず、78年前の広島へと思い馳せ、話し始めた。

「治安維持法」は1925(大正14)年に制定された。今回の講演では、この「治安維持法」の多くの犠牲者の中から杉並ゆかりのプロレタリア文学者・小林多喜二(1903-1933)、反戦川柳作家・鶴彬(1909-1938)、哲学者・三木清(1897-1945)について、小説『アンブレイカブル』を通して熱く語られた。

敗戦直後の1945(昭和20)年10月15日、GHQ(連合国最高司令官総司令部)の命令に基づいて「治安維持法」は廃止されたが、司法省の調査によると1943(昭和18)年4月までで検挙者数は6万7223名となっており、実数はそれ以上になるとと思われる。

I 柳 広 司さんとは

① 柳広司さんは当初から歴史ミステリー小説などを書き継いできたが、大逆事件で処刑された医師・大石誠之助(1867-1911)の知られざる生涯を綴る『太平洋食堂』(2020年)などの歴史小説を近年発表している。この大逆事件をきっかけに翌1911(明治44)年に設立されたのが、特高(特別高等警察)である。

② 『アンブレイカブル』の内容

『アンブレイカブル』は2021(令和3)年に発表された。この作品ではエンターテインメント小説としての手法を十分活かしながら治安維持法の犠牲者となった人々の生き方、考え方を通じてこの時代を見事に「言葉の力」で映し出している。

③ 『アンブレイカブル』の授業

島村輝さんが2022年度フェリス女学院大学の学部授業においてその教材として取り上げたのが『アンブレイカブル』だった。講演はその講義ノートに基づいて進められた。

II 『アンブレイカブル』で描かれた 小林多喜二と「蟹工船」

①「革命運動不屈の闘士」というイメージとは別の顔

小林多喜二が勤務していた 北海道拓殖銀行小樽支店の上司だった 酒匂親幸氏（故人）の次男・洋二さん（73歳）が所有していた多喜二が笑顔で写っている一枚の写真がある。この写真は 1925（大正14）年1月、同支店の社員旅行の際に撮影したと思われる。

②「蟹工船」の衝撃

多喜二の「蟹工船」には「下書き」ノートである「原稿帳」があり、そこには登場人物に名前があるが、最終稿では多くの名前が削除されている。これは「蟹工船」を読む上で見逃してはならないポイントだと指摘。

③ 拓銀解雇と「不敬罪」容疑による逮捕・収監

1929（昭和4）年3月30日、「蟹工船」を完成し、『戦旗』（5月号、6月号）に発表。この「蟹工船」（戦旗社版）が発禁となる。多喜二は 1930（昭和5）年8月、治安維持法で起訴され、豊多摩刑務所に収監された。

④ 小林多喜二と志賀直哉

多喜二は志賀直哉を師と仰ぎ、志賀も多喜二を高く評価していた。多喜二は 1931（昭和6）年11月9日、杉並町馬橋375 に住んでいた頃に志賀へ書簡を送っており、また志賀も1931年8月7日、「蟹工船」についての感想を多喜二に送っている。

⑤ 特高の手による多喜二の虐殺

1933（昭和8）年2月20日、多喜二は特高の手によって虐殺されて逝去。29歳。多喜二の遺体が運ばれたのは馬橋の家だった。

III プロレタリア・反戦川柳作家・鶴 彬（1909-1938）

① 鶴 彬（つる・あきら）とは

鶴 彬は「川柳界の小林多喜二」といわれる反戦川柳作家で「プロレタリア川柳」を発表。本名・喜多 一二（かつじ）。

② 鶴 彬と井上剣花坊（けんかぼう）・信子・鶴子

1927（昭和2）年1月、「川柳中興の祖」といわれる井上剣花坊（1870-1934）は馬橋ヶ原547番地で『大正川柳』を『川柳人』と改題し発行。この年、18歳の喜多 一二（のちの鶴 彬）は 剣花坊宅を訪問。この時、鶴 彬は 剣花坊・信子の娘・鶴子を知る。翌年、再び上京し、『川柳人』（192号）に「鶴 彬」の号でプロレタリア川柳を発表。一説には雅号の「鶴」の一字は密かに思慕



していた鶴子への熱い想いが込められているといわれている。

③ 鶴 彬の反戦川柳とその「獄死」

鶴 彬の代表的な反戦川柳作品には次の川柳がある。

高粱の実りへ戦車と靴の鋏 屍のゐないニュース映画で勇ましい
 出征の門標があつてがらんどうの小店
 萬歳とあげて行った手を大陸において来た
 手と足をもいだ丸太にしてかへし 胎内の動き知るころ骨がつき

この 鶴 彬の川柳は 1937（昭和12）年11月の『川柳人』（第281号）に掲載。この鶴彬の「反戦川柳」は「非愛国的」な川柳とみなされ、同年12月3日、治安維持法違反で検挙され、中野区野方署に留置。1938（昭和13）年8月、赤痢となり、豊多摩病院へ入院。同年 9月14日、逝去。29歳。

IV 敗戦直後、三木 清の獄中死と人間の尊厳

敗戦直後の三木 清の〈獄中死〉には人間の「尊厳」が示されています。

V おわりに「現実」に覚醒させる演劇の役割

— 東京芸術座『アンブレイカブル』に期待する —

東京芸術座アトリエにて「『アンブレイカブル』— 敗れざる者たち—」（脚本・演出：杉本孝司）が柳広司氏の小説『アンブレイカブル』を原作に舞台化されました。舞台では原作にある反戦川柳作家の鶴 彬を除く、1925年に成立した「治安維持法」の犠牲になったプロレタリア作家の小林多喜二（「雲雀」）、「横浜事件」に巻き込まれ、知人たちの失踪に怯える若き編集者の和田喜太郎（「虐殺」）、哲学者・三木清（「矜持」）の3人が登場する。この舞台化では「凡庸さの砦」に閉じこもるクロサキの「凡庸な悪」が描かれているが。現在の私たちを取り巻く状況の中で、私たちが警戒しなければならないのは、まさに「凡庸な悪」に他ならない。（凡庸＝平凡なこと・人）

講演のあとには 参加者から多くの質問が寄せられ充実した活発な交流が行われた。

（松川真澄）

この写真は、1936年（昭11）高円寺青梅街道沿いに新築する「城西消費組合」店舗のための土台固め・ヨイトマケの情景。右端は組合役員 新居格。左から3人目は井上信子。このように反戦川柳作家：鶴 彬は次の句に残している。「奴隷でない女のヨイトマケ」「インテリが疲れ女工立つ」「新居格ペンだこあわれ綱に負け」「親綱をとる井上信子まだ老いず」…そこには鶴 彬の明るく、飾らない一面が…。



ドキュメンタリー映画上映 鶴 彬生誕100年記念
 「鶴 彬(つる あきら)—こころの軌跡」
 監督:神山征二郎 DVD 約90分



8月4日(金) 14:00~15:30 地下:集会室
 8月6日(日) 10:30~12:00 地下:集会室

2023年は、小林多喜二 没後90年であり、反戦川柳作家・鶴 彬の 没後85年の記念すべき年です。

2023年のすぎなみピースフォーラムでは8月4日(金)と6日(日)の両日「川柳界の小林多喜二」といわれる 反戦川柳作家・鶴 彬

(1909-1938) の DVD が杉並産業商工会館の地下の集会室で上映されました。

この 神山征二郎監督『鶴 彬—こころの軌跡—』は鶴 彬の生誕100年を記念して2009年3月29日、鶴 彬生誕の地である石川県で開催された「鶴 彬 生誕百年記念祭」で初めて上映されました。この時の記念講演は作家の澤地久枝氏によって行われました。

その後、全国各地で上映され、杉並区でも上映されました。主演の鶴 彬を演じたのは池上リョマ。井上剣花坊(1870-1934)を演じたのは 高橋長英、その妻・信子(1869-1958)は榎山文枝が演じました。また娘・鶴子は 藤島叶子が演じ、ナレーターは 日色ともゑが担当しました。

この映画の冒頭では荒れ狂う日本海を背景に後に鶴 彬と名乗る 喜多 一二(かつじ)が「暴風と海との恋を見ましたか」の自作の川柳を詠みます。この川柳は1925年、鶴 彬、16歳の作。壮絶に絡み合う「暴風」と「海」の巨波を「恋」と表現しました。まさに彼の生涯を象徴しているようです。

(途中、一部省略しました)

喜多 一二が『川柳人』に鶴 彬の雅号を用いて川柳を投稿し始めるのは、1928年11月の『川柳人』(193号)。そこには「プロレタリア生む陣痛に気が狂ひ」が掲載されています。

1929年には、小林多喜二(1903-1933)がナップの機関誌『戦旗』の5月号・6月号に『蟹工船』を発表。一躍、プロレタリア文学の旗手として活躍します。

1930年2月号の『戦旗』にはマンガが挿入された 鶴 彬の「プロレタリア川柳」が7句、掲載されています。

同年7月に、『蟹工船』を著したことにより 多喜二は「治安維持法」違反で逮捕、起訴、豊多摩刑務所に収監されました。その後、1933年2月20日、29歳の若さで拷問により死去。

鶴彬は1930年から1933年まで金沢の第9師団 第7連隊に歩兵として在営し、この間に

「赤化事件」を起こし、軍法会議にかけられ、大阪の監獄で1年7ヶ月過ごしました。除隊後の1934年1月、再び鶴彬は『川柳人』に多行形式のプロレタリア川柳や評論を発表。1937年11月の『川柳人』（281号）に「万歳とあげて行った手を大陸において来た」や「手と足をもいだ丸太にしてかへし」を発表。この川柳が「治安維持法」の違反として特高（特別高等警察）に検挙され、中野・野方署に留置され、1938年に赤痢にかかり、豊多摩病院に入院。映画では、病室に見舞いに来た信子と、手鎖りをつけられ ベッドに横たわる 鶴彬の姿が映し出されます。9月14日逝去。享年29歳。

71歳の信子は 戦時中の1940年1月、鶴彬の〈死〉を悼み、真の平和を願い、『巻雲』に「国境を知らぬ草の実こぼれ合ひ」を発表。これは「平和川柳」の代表作として今日でも人々に愛誦あいじゆされている一句です。

この映画は、鶴彬の生涯を克明に描いたドキュメンタリー・ドラマの様式で制作されたもので鶴彬の真実の姿を描いていました。会場では、「今まで知らなかったが 鶴彬の壮絶な生き方に感動した」との多くの声が聞かれました。
(平 川柳)

8月5日(土)11:00~11:40 地下集会室で

DVDによる記録 声を上げる高校生たち「核禁止条約署名・批准を」を上映

核兵器禁止条約が発効した2021年、日本が条約に参加することを求めて、高校生たちは街頭や学校で署名を集め始めます。

新型コロナの感染が広がる中、戸惑い、悩み、励ましあって集めた署名13,642筆を外務省に届けました。

高校生たちのひたむきなまなざしと行動が、核兵器と戦争のない世界への希望を紡ぎました。



〔3〕 皆さんからの感想

参加者	8/4(金)	展示：60人	DVD：20人	
	8/5(土)	展示：74人	DVD：10人	講演 五野井さん：68人
	8/6(日)	展示：115人	DVD：29人	講演 島村さん：68人
		合唱：24人		計 のべ 468人

展示に関して……

- *ピースフォーラム、何回目になるのでしょうか。続けるということは、大切だと思います。今年は「新しい戦前」ではないと言われるほど、政治状況が悪くなっています。その事が展示の中からひしひしと感じられました。黙ってはいけません!と強く思いました。暑さの中、準備を力を合わせてやってくださった皆さんありがとうございました。(80代)
- *一人でも多くの人に来てもらいたい展示物。生で体験を話される方々とも会ってもらいたいと切に思います。平和運動で杉並は歴史もあるし、下地も育っていると思うので、力はあると信じています。みんながしっかり知ることができれば。(70代)
- *講演会も展示も、とても良かったです。甲状腺がんの子どもたちの様子、初めて知りました。もう少し詳しく知りたかったです。(60代)
- *展示物はどれも関心を持って拝見しました。福島原発の被曝問題や沖縄の基地問題等、全く国の政策に対して疑念ばかりです。来年も継続して平和フォーラムの開催に期待しております。若い人たちに来場してもらうようになればいいですね。(70代)
- *核廃絶は永遠のテーマ。Never give up! (90代)
- *展示を見ながら、知らないことばかりを重く受け止めつつ、まだうまく言葉にできません。日々社会問題について、政治や差別について勉強したり、考えてきながら、あまりに自分の無知に無力を感じることも多いのですが、杉並区から、一市民から平和のために運動し、大きくしてきた人々がいることに少し勇気をもらいました。今後もこうした展示があれば、訪れたいです。(20代)
- *友人に誘われて初めてきましたが、スタッフの方の実体験に基づいたお話がとても分かりやすく、改めて今楽しく生活できていることの有難みを感じました。来て良かったです。(20代)
- *展示・講演とも興味深かったです。毎年、準備やご活動大変だと思いますが、今後も継続されますよう期待しています。(60代)
- *展示も素晴らしく、たくさん若い人や子供たちにも見てもらいたいと思いました。(60代)
- *毎年工夫を凝らした展示で、いろいろと学ぶことが多い。今後とも継続していただきたい。(60代)
- *事実を知ることは生きている人間の人権である。「はだしのゲン」夏休み阿佐谷北図書館で上映していたのを、なぜ止めた???
- *今年は関東大震災100年。戦争をしないためには、政治の面の努力も必要ですが、市民の交流、友好もとても重要だと思います。そのために、振り返り忘れない。101年になっても102年になっても。弱者の立場で考える。そして来年は第五福竜丸事件、70年。
- *パネル、杉並から始まった反核運動。よくわかりました。そして現在進行中のウクライナ侵攻の今こそ、核禁条約の重要性がわかります。(60代)
- *猛暑の中でのご準備、お疲れさまでした。永く永く語り継がれます、(この)ご努力を陰ながら応援させていただきます。

- * 多くの資料展示、ごくろうさまでした。大変だったと思います。勉強になりました。
- * 改めて原爆の悲惨さを知り、戦争のむごさを実感しています。でも人間って”オロカ”ですね。同じことを何回も繰り返して～ 映画「ひろしま」を上映する機会をつくってください。(80代)
- * これまでに比べて、展示がすっきりして見やすくなっていますね。簡潔にするには大変なエネルギーが必要だと思います。ご健闘を称えます。(90代)
- * 原水禁運動とすぎなみ。平和川柳と鶴彬などの展示が興味深く、勉強になりました。(60代)
- * いまのよのなか、マスコミ(テレビ・新聞が劣悪、ジャーナリスト・記者コメンテーターすべてが劣悪)?これに対して我々庶民はどうしたらいいか……私は電話などで訴えますが、効果はないでしょう。すべて日本のトップの政策は、日米合同会議で決定されています。日本は真の民主主義国、主権在民ではないと思います。段々悪くなっていきとても心配です。ロシア・ウクライナ戦争のことも話して欲しかったです。
- * 現在私は92歳です。杉並から始まった原水禁署名運動の記憶がしっかりあります。夏になると思い返します。だんだん原水禁運動が薄れてきたのを懸念しています。(90代)

講演について……

8/5 五野井郁夫さん(高千穂大学教授)「21世紀の国際秩序と日本外交」

- * 五野井さんの講演、大変わかりやすく、日本のあるべき外交の形や、私たち市民の役割が良く理解できました。(60代)
- * 久しぶりに明快な内容を聴くことができました。もっとメディアに出てほしい先生です。
- * ウクライナにロシアが侵略して500余日、一日でも早く戦争が終わってほしいとの願いもむなく、終わりのめども見えません。今は日本でも、まだやっているの…という程度で、マスコミの取り上げ方も弱くなっていると感じます。五野井さんの話で、日本が平和のための仲介者としての役目があるという話ははじめてでした。学んだことをどう生かしていくか、これかに考えたいと思います。
- * 五野井氏の講演は明快で大変興味深く聞くことができた。(60代)
- * ありがとうございます。「台湾有事」に関して、日本の持つべき外交力はどうか、もう少し詳しい説明が欲しかった。五野井先生のお話は、いつも楽しく聞かせていただいています。
- * 素晴らしい講演の途中でしたが、会場の換気の悪さとマスク着用率の低さで、早々に会場を後にした。
- * 講演を聞いて、安全保障だけでなく外交面で、平和憲法を堅持して、日本として世界の秩序の役割を果たすことが重要だと考えた。また今回の展示のような取り組みが、地域の方々を中心に世論の形成につながると思う。現在、戦争世代の高齢化が進み、戦争の記憶を風化させないように、若い世代も巻き込んだ取り組みをぜひ続けていただいてほしいと思い、平和への声を閉ざさないようにと感じました。(20代)

8/6 島村輝さん(フェリス女学院大学教授)

『敗れざる者』たちの肖像 — 戦争に抗した杉並ゆかりの小林多喜二・鶴彬・三木清

* 杉並ゆかりの戦争に抗した先人の多喜二とつながる人の中に鶴彬さんがいることを昨日の展示物と説明で初めて知りました。そして今日のDVDの映画を拝見して、1925年の治安維持法下の戦争にのめり込む時代に、2度の入営と思想犯として犠牲になった生涯を知り、その頃の厳しい時代に頑張りぬいた生涯(29歳)を知り、このことを杉並や中野でも宣伝しなければと強く思いました。「戦争に抗した……先人たち」の展示に鶴彬さんが入っていないので、ぜひ付け加えてほしいです!! (70代)

* ・チラシに詳細がなく、「鶴彬」のDVDを見逃してしまって残念。(80代)

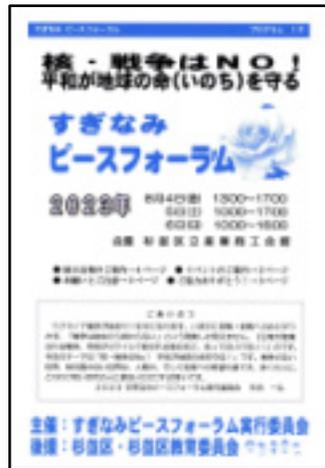
[4] いろいろな資料



案内：チラシ 表面



案内：チラシ 裏面

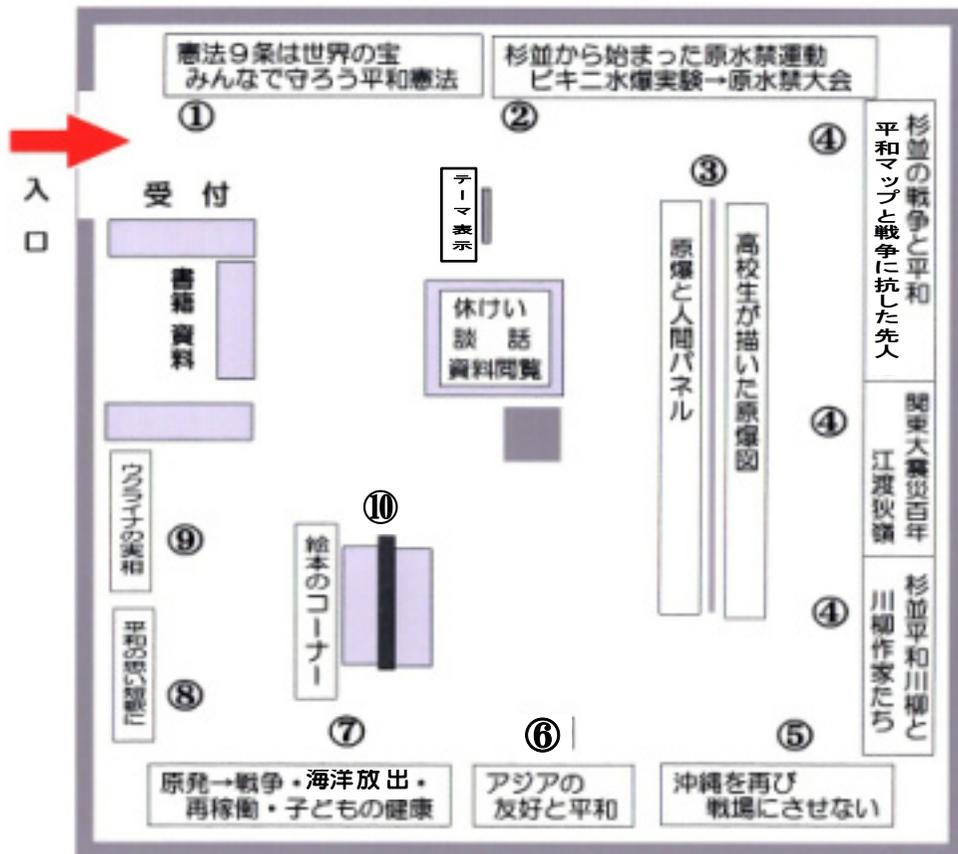


プログラム 表紙

2023年すぎなみピースフォーラム 会計報告

収入金額		印刷製本費 報告書等	58,069
団体負担 前年度繰越金	249,097	通信費	2,844
賛同金13団体、個人62人	176,410	会場費 実行委員会、当日分	47,300
会場カンパ	13,600	事務費 文具費、紙ロール、コピー代	24,542
書籍売り上げ	78,200	交通費 運搬費2回分	10,000
計	517,307	印刷費 チラシ、パネル代	59,706
支出金額		計	252,461
謝礼・出演料等 講師料×2、合唱出演料	50,000	残金 次年度繰越金	264,846

展示会場の設営：平面図



すぎなみピースフォーラム 2023年度 実行委員

事務局長 : 矢内 一弘 次長: 佐々木 征 会計: 山北 敦子
 顧問 : 井上惣左衛門 岩崎 健一
 実行委員 : 赤坂 和子 加藤 恵子 金田 克彦 久保田朋子 佐藤 康尚
 平 川柳 竹内ひで子 高木 堆芳 中島 忠夫 早川美和子
 本多百合香 八木 知彦 山田ヒサ江

〒168-0063 杉並区浜田山 4-18-11 矢内 一弘 TEL 03-5938-3846



展示「杉並ゆかりの反戦川柳作家」
鶴 彬 について説明する 平 川柳さん

【表紙の写真】

江渡狄嶺(えとてきれい)の農場；三蕨苑があった高井戸東1丁目8番の風景
23年9月23日 杉並ピースウォークで訪問。撮影は 10.7 Takagi
枠内の写真=上:晩年の江渡狄嶺 下右:1913年(大2)農園を開いたころの母屋
下左:農園ではヤギも飼われていた。 ☆7~8ページ 関連記事

主催：すぎなみピースフォーラム実行委員会
後援：杉並区・杉並区教育委員会